

四万十看護学院自己評価

本学の教育理念・教育目的は、科学的な知識や技術と共に、人間的な思考と、社会性を身につけるために自己研鑽し、専門職業人として地域社会に貢献する実践者を育成することです。高知県は住民 1 人当たりの病床数の多さに反し、医療機関の地域偏在や医療療養病床削減の問題、労働者不足による看護業務への影響など多くの問題を抱えています。よって、地域共生社会づくりに向け、時代の要請・地域の要請を把握しながら、看護基礎教育の本質を捉えつつ、本学の使命を果たしていきます。

上記目的のために、法的整合性を踏まえつつ学則を定めている。成績評価、教職員の組織に関する事項、運営会議、授業評価を確実にを行いガバナンス強化に努めております。

○授業評価アンケート結果

▷授業評価目的

本校では、教員の教授活動を自律的・循環的・継続的に評価するために、科目ごとに授業評価アンケートを実施している。今年度から学生自身の学習の振り返り、自学・自修を自己評価する項目と教員が自学・自修を考慮した授業を行っているかを問う項目を設定した。

▷アンケート用紙

▷結果

※達成状況は、アンケート結果、実績値などの数値化によって考察し、評価は以下の2つの観点を併用しながら行った。

◆100%の達成率に対して、A：80%以上 B：60～79% C：40～59% D：39%以下 とする。

◆A：十分達成 B：ほぼ達成。一部に改善の余地がある C：一部に課題がある D：大きな課題があるとする。

1. 結果

令和元年度授業評価アンケート結果では、科目全般にわたり授業に対する評価はA～Bとなった。科目総評価でB（ほぼ達成だが、一部改善の余地がある：80%以下）となった項目は、(4)先生は、学生の理解度を確認するために具体的な方法を取りましたか(6)先生は授業のあいだ学生に何を求めているか明確にしていきましたか(5)先生は、授業中の私語・態度に対して適切な対処をしましたか(8)授業の内容に対する関心を上手に引き立てるものでしたか、であった。(8)においては、パワーポイントのみならず、動画といった視聴覚教材を多く活用している場合は、授業評価が高い傾向であった。

学生自身の自己評価については、総評価B（ほぼ達成だが、一部改善の余地がある：80%

以下) となった。

【学生の声】

- ・最新の国家試験問題と関連付けてくれたり、実際に動画で精神科について学んだためより理解が深まった
- ・生徒がわからなければ、解るまで教えてくれた
- ・自分で復習・予習してきたことを次の日自分たちで講義することでインプットすることが出来て良い講義だと思った。
- ・先生の実体験をもとに、いろんな考え方を学ぶことが出来て良かったです。
- ・イラストとかよりも写真で見せてくれたので、イメージしやすかった。
- ・話が奥深くて、勉強になることばかりだった。心を大切にしていきます。

2. 次年度に向けた課題

1) 目標の明確化と学修度の評価

項目 (4)先生は、学生の理解度を確認するために具体的な方法を取りましたか

(6)先生は授業のあいだ学生に何を求めているか明確にしていましたか

2項目の平均点数がやや低かったことから、授業ごとの到達目標をさらに明確に示し、レスポンスシートの活用や確認テスト、課題学習により学修度を評価していく必要がある。FDの実施による教員の教授力の向上にさらに取り組んでいく。

2) 学修環境の整備

項目 (5)先生は、授業中の私語・態度に対して適切な対処をしましたか

学ぶ意欲を損なうことのないよう適切な対応を行っていく。また、関心を上手に引き立てるための工夫をより一層行いながら、一方で、学生自身の学修姿勢への振り返りを強化していく必要がある。また、ルーブリックの活用や OSCE の積極的な導入による学生の主体的なアクティブ・ラーニングを積極的に導入していく。

3) 学生の振り返りや自学・自修を促す授業づくり

今年度から学生自身の学習の振り返りや自学・自修を自己評価する項目と教員が自学・自修を考慮した授業を行っているかを問う項目を設定した。結果、教員が必要な予習・復習の方法の提示が不明瞭な場合は、学生の予習・復習への向き合い方も低下する傾向にあった。本校のシラバスには予習・復習が明確に記載されておらず、次年度の改善課題である。

3. 次年度の授業評価アンケートに向けて

これまでの授業評価は教授力の評価にのみ重きを置いてきた傾向がある。次年度からは、さらに発展し、ルーブリックや OSCE の積極的導入、学習者の自学・自修を刺激し主体的

に教育へ参画していく姿勢を育む必要がある。認知領域・情意領域・精神運動領域など多様な側面から評価するとともに、教授者のみの評価から、学習者による自己評価を実施する。また、看護学実習においても教員自己・他者評価を取り入れる。3年間を通しての変容過程を総合的に評価し、看護教育の特徴である実践力や臨床判断能力・推論力へと結び付けられたかを評価していく。